

るのが流行するやうですが、之れは體力を消耗する事が甚しく過度に疲勞するから宜しくないのではありません、其他女子には花束を造らせるとか、美的の遊戯は是非勸め申したい。

○専門の家庭教師 交際社會に立つて勢力の中心點となるのは婦人ですから、交際多忙の母親は子供の教育上多く家庭教師を頼んで、責任をおびて教育して貰ひます、尤もこれは、生活の程度にも依ること、中流以下の者で家庭教師を頼む資力のないものは従ふて交際も頻繁でないから、母親自身で教育するが、どうも専門の家庭教師の方が経験もあるし母親よりも上手に保育するかと思ひます。



割 烹

石井泰次郎

前號のが豆腐料理ですから、次には松茸といふ順序で、豆腐に松茸の味をそへて見ましよう。

いり松茸の拵方

松茸を能く水で洗ひまして、小口に斜切に切りまして、鍍鍋をからのまゝ、炭火の上にかけてましたのに、入れまして、手早く箸でかきまぜます、少し焼目かついた位の時に、醬油をさしまして、又かきまぜまして、それから柚子のしぼり汁を加へ

まして、皿にとりうつします。

いる時に、いりすぎるとマツクロになりますから、注意して、それから醤油も濃いのなら、湯と半分わりにして、入れたのがよいのです、柚子は、四つ切にして、汁をしぼつておきましてつかひます。

三盃酢の拵方

これは、松茸の中ぐらゐのを、莖ばかりを、たてにうすくタンザクに切りまして、煮えたつた湯の鍋の中に入れて、すぐに出して、湯の汁を切て、三ばい酢の中へ入れます、三盃酢は、みりん一合醤油五勺、酢一合ぐらゐのわり合で、酢を煮かへして、醤油とませ、みりんも煮かへしてませで、器に入れておくのです、

ひたしもの拵方

これも、前と同じ様なのです、莖と笠と兩方も、極薄く薄刃庖丁で、切てざつと右のやうに湯に入れて、出してから、柚子の汁を入れた醤油でひたして、胡椒の粉をすこしかけて出します、またこうしないで、丸のまま、湯煮したのを、引さいて、柚子醬油にひたしても出します、

葛煮の拵方

くず煮といふのは、餡かけの煮込みましたのです、切方は小口でも、斜切でも、まづ湯煮をしまし、て、みりんと、醤油と、水とを合せました汁を、みりん一合、醤油一合内、水一升のわり合で、拵へまして、能く煮立まして、其汁の中へ、葛粉を水でといて二十五匁入れまして、あんにつくりまして、松茸の切つて、湯煮したのを入れましてかきまわして煮ます。

けんちん松茸の拵方

松茸の大きなのを、莖ばかりを、ぐるぐると上皮をむき去り、中のをあつさ五重ほどに長く切れないやうにむきまして、平たくして乾いて、其上へうどん粉をふりかけまして、其上へみつばを洗つて、切そろへたの、きくらげの洗つて湯煮して、きざんだのを入れまして、くるくるとまきまして竹の皮の細いので、二所ばかり結んで、あぶらであげます、五分間ぐらゐかゝります、おろし醤油で出します、あげたのを二つ位に、小口切にして出すのです、

あげだし拵方

これは中びらきの笠ばかりを、あつく切て、ごまの油であげて、おろし醤油で出すのです、

でんがく拵方

これも、右のやうに切て、串にさして、あぶりてよくあぶりてのち、味噌をぬりて出すのです、味噌は、わさびみそです、

普通のあまいみを四十匁、すりまして、うらごし、まして、砂糖十六匁と、みりん四匁と水四匁とを合せてぬりましたのに、わさびをぬりしたのを、庖丁刀でたいたのを、入れよくまぜました、といふつくりかたです、

湯まつだけ拵方

松だけを、水にて能く洗ひまして、切方は、小口でもたんざくでも、湯なべへ入れて湯煮しまして器へ入れまして、上からくずだまりをかけて出します、くずだまりの拵方はとうふのところにてつてあります、

このほかに、かすく拵方がありますが、あ

まり御はなしして居るうちに、松茸がうりきれ
て仕舞いますといけませんから、まづ此位にし
ておきます、

とうふは、松茸、其他たけるおの毒をけす、と
いつて必ずつかひます、

家庭に於ける所感(承前)

長野縣 飯塚忠次郎

(七) 小兒と疑問

か子さんのあるお家庭などでは既に御承知のこと
であるかと存じますが、とかく小兒はみたりさい
たりするごとによく疑問を致しますもので「草は
どうしてはえるの、ごはんはどうしてこさうの」
と、それはそれは種々様々な自分ではわからない事
は何によらず一日の中に問ひかけます、それにた

いして世間一般の家庭の人達は親切に丁寧にい
ち其間を空にせず、答てやるといふゆかしい
心をもつてゐるでしょうか、私はもつてゐられる
とはつきりと申たいがなにかさしてそらいふとは今
日までの視察によつてみますと断然出来ませぬ、
何故で御座いませうか、それは小兒が疑問を發
すると多くの家人は「そんなとは誰れにかさ」と
かいふて、一向とりあひませぬのみかうるさい様
な顔色をして「おまへはよくいろんなことを、さく
くだねえ、しつこいよ」と何たる同情のない言葉で
御座いませう、小兒が疑問をはつするのは實に
智識を啓發する端緒ではありませぬか、疑問を發
する小兒の心をおかひいとお思ひになりませぬか
塵つもつて山を成し一滴の水も集つて大河をなす
のたとへのように、此様ないとさういふ事でも